広く社会に役立つ宝くじ

自治会活動促進のためエアコンや椅子を整備しました

地域活動の活性化のため、宝くじ社会貢献広報事業の助成を受け、千束自治会と中市下自治会の2団体が、エアコンや机、椅子などの備品を整備しました。

この事業は、(一財)自治総合センターが、地域のコミュニティ活動の充実・強化と地域社会の健全な発展、住民福祉の向上のため、宝くじの受託事業収入を財源として実施する事業です。

総合振興計画等評価委員会 答申

「第3次総合振興計画」「第3期総合戦略」で定めた施策の進捗や成果を、評価委員会(影山和典委員長)で評価し、9月1日に答申書が提出されました。

評価委員会での意見は、来年度事業の組み立てに反映していきたいと考えています。主な意見は下記のとおりです(詳細は町ホームページに記載)。

町ホームページ

① 総合振興計画等目標指標の状況(主な指標)

目標指標	基準値 令和5(2023)年(度)	実績値 令和7(2025)年(度)	目標値 令和11(2029)年(度)
子どもの出生数	22人／年 (2020-2023平均)	9人／年	25人／年 (2025-2029平均)
社会増減数	△4人／年 (2020-2023平均)	△7人／年	10人／年 (2025-2029平均)
結婚祝金支給件数	2組／年	5組／年	10組／年

② 施策ごとの主な意見

政策分野Ⅰ 創造力のある未来の人づくり(子育て・教育・文化)

●教育の情報化の推進

AIとの関わりは、子どもたちが活用の仕方を学ぶことも大事だが、考える力が低下していくことも心配。良いところ悪いところあるので、考えて進めていただきたい。

政策分野Ⅱ 誇れる産業と仕事づくり(産業振興)

●担い手受け皿組織との連携

特定地域づくり事業協同組合は、農業や観光などマルチワーカーのように働く趣旨であり、それができるようにするのが行政の仕事。定住にも関わるので、1年中働ける仕組みづくり、それなりの給与をもらえるのも含めてやるべき。

政策分野Ⅲ 誰もが健やかな暮らしづくり(保健・医療・介護・福祉)

●医療従事者の確保

従事者確保のために何年も福祉の魅力を発信しているが、介護職は毎年募集しても1人も応募者がない。保育は応募が少しあるが、結局退職して町外に転出される。介護は学校もどんどん閉校になっており、若い方が介護をしたいという気持ちがないのではないかと大変危惧している。行政として介護の魅力発信のみでうまくいくと思っているのか。

政策分野Ⅳ 安心して暮らせる環境づくり(定住・生活・防災・自然環境)

●受け入れ体制の充実

子育て支援は充実しているし、教育も飯南高を中心に地域で盛り上げようというのが県内でも有数なまち。選ばれるには、仕事、住まい、教育、暮らしを全部パッケージにして示すべき。人口減に関しては他のことを置いておいてでもリソース(人・こと・金など)を振り向けた方がよい。

政策分野Ⅴ 協働で進めるまちづくり(自治・行政運営)

●土地・公共施設等の有効利用

施設の集約は、まちのデザインが大事。庁舎を中心としたデザインをするのであれば、農林会館は違うものを建て、色々なものを集約したものを作るとか、教育であれば来島、頓原は医療福祉といった、デザインを絡めたまちづくりをした方がよい。

百寿おめでとうございます　9月16日(水)

今年度百歳をお迎えの方をお祝いしました。

内閣総理大臣からの祝状と銀杯をお届けした方は、次の皆さまです。(生年月日順)

- 森下　春江さん
- 石田　貞子さん
- 芥川　順吉さん
- 宇田　マサ子さん

他1名

10月1日現在、飯南町には百歳以上の方が17人いらっしゃいます。

問 保健福祉課 ☎72・1770

森下春江さん

芥川順吉さん

宇田マサ子さん

飯南町注連縄企業組合へ島根県知事より感謝状授与

島根県中小企業団体中央会創立70周年記念式典(松江市)において、飯南町注連縄企業組合が島根県知事より感謝状を授与されました。

注連縄企業組合の稲わらを活かしたしめ縄づくりや、伝統文化継承の取組は、地元の地域資源を活用し、地方創生に大きく貢献していると高く評価されました。

9月16日には飯南町注連縄企業組合より菅武志代表理事らが塚原町長を表敬訪問。出雲大社大しめ縄架け替え後の反響の大きさや、全国からの受注状況などを交え取組を報告しました。

飯南町注連縄企業組合 菅武志代表理事(左)と塚原町長

企業版ふるさと納税 企業紹介

三光株式会社
代表取締役　三輪　昌輝　様

同社は昭和54年創立。産業廃棄物、特別管理産業廃棄物、一般廃棄物の収集運搬、中間処理(破砕・圧縮固化など)を行う。

廃棄物の適正処理やリサイクル事業を進めていくことが、地球環境保護活動に大きく寄与していることから、処理能力の向上やリサイクル技術の確立に積極的に取り組んでいます。

10月5日に感謝状を贈呈しました